

ケアマネ通信

第36号

発行 上越地域居宅介護支援事業推進協議会 2019年2月吉日

平成30年度講演会

日時 平成30年11月30日(金) 14時～16時
会場 高田公園オーレンプラザ
演題 「住民主体の地域づくりとケアマネの役割について」
～実践を通して見えてきたもの～
講師 岩手県立大学 社会福祉学部
准教授 佐藤 哲郎 先生

よねやまの里指定居宅介護支援サービスセンター
管理者 小酒井 みち代



佐藤先生の情熱的で随所にユーモアを交えての講義は非常にインパクトがあり、新たな視点と活力を頂きました。

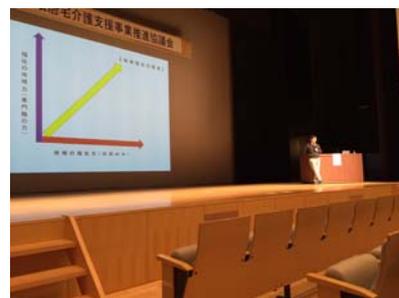
介護支援専門員は日常業務のなかで①「地域支援を意識すること」②「個人・家族・地域を串刺しにしたトータルなアセスメントの視点を獲得すること」が地域づくりに関わる役割であることを改めて認識しました。

上記②については、佐藤先生のご家族事例として、担当介護支援専門員が疾病を負う前に関わっていた、友人、地域住民との交流が再開できるよう意図的に段差解消の住宅改修を行い、そのきっかけづくり、仕掛ける支援をされたとのことでした。これまで住宅改修の多くは転倒予防や動作の自立であり、身体機能の支援が中心で、社会とのかかわりを繋げる視点は希薄でした。

当然ながら、利用者は地域住民です。生い立ち、職業歴も含めて、どんな生活をしてどのような地域の交友関係があるのかとの視点でアセスメントをすれば、必然的に社会とのかかわりを維持できるようにどのような支援を行うべきか、その視点も違ってくるはずです。

また、地域支援を意識することについては地域の福祉課題を解決するために、その課題を有する当事者の声を地域の方に聴いてもらい、公にしていくことで、地域福祉づくりのきっかけとなることを学びました。介護支援専門員との信頼関係がその行動に繋がったとのことでしたが、利用者の課題を地域の方にお伝えしたり、地域住民との話し合いの場で発言を依頼することは実際にはハードルが高いと想定されます。

まずは「個人・家族・地域」を串刺しにしたトータルなアセスメントを行っていくことから実践していきたいと思います。



「認知症治療薬の紹介、効能について」

上越薬剤師会
副会長 押山 貴光 様

2018年現在、日本国内では認知症の薬としては下記の4種類が認可されています。これらの薬は2グループに分けられます。アリセプト、レミニール、リバスタッチパッチ/イクセロンパッチはアセチルコリンエステラーゼ阻害薬というグループに分類され、効果などある程度共通した特徴を持ちます。もう一つはメマリーというNMDA受容体拮抗薬です。上記の3剤とは異なる働きを持ちます。そのため、複数のアセチルコリンエステラーゼ阻害薬と同時に使用することはできませんがメマリーはアセチルコリンエステラーゼ阻害薬のうち1剤と併用して治療することも可能です。

分類	名称	適応				剤形	使用回数
		アルツハイマー型認知症			レビー小体型認知症		
		軽度	中等度	高度			
アセチルコリンエステラーゼ阻害薬	アリセプト（ドネペジル塩酸塩）	○	○	○	○	内服	1日1回
	レミニール（ガランタミン）	○	○			内服	1日2回
	リバスタッチパッチ/イクセロンパッチ（リバスチグミン）	○	○			貼付剤	1日1回
NMDA受容体拮抗薬	メマリー（メマンチン）		○	○		内服	1日1回

認知症には様々な種類がありますが、上に紹介されている認知症の薬が適応となるのは現在のところアルツハイマー型認知症およびレビー小体型認知症(アリセプトのみ)に限られています。

アリセプト、レミニールのような錠剤を服用してくれない利用者さんにはパッチ剤が効果的です。

代表的な副作用としてアセチルコリンエステラーゼ阻害薬(アリセプト、レミニール、リバスタッチパッチ/イクセロンパッチ)では下痢や嘔気などの消化器症状や興奮などの精神症状があります。貼付剤であるリバスタッチパッチ/イクセロンパッチでは貼付部位のかゆみや発赤などの皮膚症状がみられることがあります。またメマリーではめまいやそれに伴うふらつきが出現することがあります。



薬物療法を開始しても症状の変化がみられず効果が実感できない場合でも、何も治療しない場合より症状の進行を遅らせている可能性があります。また、服用を急に中止してしまうと、治療をしていなかった場合と同等の状態まで症状が急に悪化してしまう場合があります。自己判断で中止せず、主治医の先生と相談しながら治療を受けましょう。





♥地域包括支援センター新体制



事業所紹介

しおさいの里 地域包括支援センター
主任介護支援専門員 田中 主志 様

平成 30 年 4 月、上越市の地域包括支援センター再配置によって大潟区と頸城区を担当させていただくことになりましたしおさいの里地域包括支援センターです。

大潟区は引き続きの担当ですが、頸城区は初めて関わる地域ということで、頸城区の関係者の皆様には事業所が変わることへの不安を少しでも解消するために、職員を市の基準以上の配置（2名から3名に増員）とするとともに、事業所を頸城区総合事務所内に設置させていただきました。

当センターでは地域にも積極的に出て、センターの周知をするとともに認知症や季節に応じた健康講座を開催しています。特に認知症については職員の寸劇が面白くて分かりやすいと好評をいただいています。

また上越市が行っている「地域支え合い事業」はそれぞれの住民団体に協力しています。頸城区では「くびき振興会」が主催する認知症カフェ「あやめ茶屋」の準備に携わり、地域の皆様に開始することができました。

地域包括支援センターの活動は法人のホームページに掲載しています。「うみまち通信」で検索できますので、ぜひご覧下さい。

最後に、地域包括支援センターはケアマネ支援にも取り組んでいます。気軽に相談できるような関係を目指して頑張っていきますので、よろしくお願いいたします。



(大潟くらし支援室：歌、小山、田中)



(頸城くらし支援室：小林、野口、佐藤)

事業所紹介

妙高市社会福祉協議会
管理者 宮越 まち子



当事業所は平成12年から介護保険サービスを開始し、現在妙高市内を中心に事業展開しております。社会福祉協議会の介護部門のひとつで、他に訪問介護事業、通所介護サービス事業があります。

3名体制で、サービス提供を行っており基礎資格は看護師、介護福祉士で年齢層も30～60代と幅広く、生活感あふれる会話から、芸能ニュース、時事問題まで幅広い内容の会話がとびかっています。

先日介護者のつどいを開催し、ケアマネ全員体を張って頑張りました。内容は「もっとそばに」をテーマに介護者の方達と蕎麦打ちをし、食べるというものでした。それはそれは見事な連携プレーでおいしい蕎麦、天ぷらを頂くことができ次年度も続けていこうなんていう声が聞かれました。介護とかけ離れた内容で、どう捉えられるか心配でしたが、10名程参加して下さり、湯気の向こうの笑顔を見た時は嬉しかったです。

利用者、介護者と共にある私たちの立ち位置を忘れず、これからも業務に励みたいと思います。

居宅介護支援事業所 みんなの家
管理者 林 清美



私たちの事業所は、金谷山近くの「NPO法人ささえ愛みんなの家」の中にあります。

この「みんなの家」は、平成17年にボランティア仲間が活動の拠点として開設したもので、誰でもゆっくりできる「デイホームみんなの家」、障害児の放課後等デイサービス「ぼぼの家」、そして私たちの居宅介護支援事業所から成り立っています。

ケアマネは3名ですが、デイサービス併設施設ということで、2名はデイを兼務しています。このため、ご利用の皆さんと直接係わり、生の声を聞くことができ、ケアマネとしての職務に大変役立っています。

また、法人の理念として、町内会とも積極的に交流し、日ごろから町内の皆さんと気さくに挨拶したり声を掛け合ったりしているため、町内の皆さんからご支援を頂いたり、反対にご相談を受けることもあります。

ケアマネ業務は一段と地域で果たす役割が求められています。

私たちは、これからも地域の皆さんができる限り自宅で過ごせるよう、皆さんに寄り添いながらご支援を続けていきたいと考えています。

ご多忙の中ご寄稿頂いた皆様に御礼申し上げます。